

**IBM Security Intelligence on Cloud**

**スタートアップ・ガイド**

**IBM**

注記

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、13 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、本書の更新版に置き換えられない限り、IBM Security QRadar Security Intelligence Platform V7.2.6 および以降のリリースに適用されます。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： IBM Security Intelligence on Cloud  
Getting Started Guide

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

© Copyright IBM Corporation 2015, 2016.

---

## 目次

<b>IBM Security Intelligence on Cloud のオンボードの概要</b> . . . . .	<b>v</b>
<b>第 1 章 IBM Security Intelligence on Cloud の概要</b> . . . . .	<b>1</b>
<b>第 2 章 IBM Security Intelligence on Cloud のオンボード</b> . . . . .	<b>3</b>
<b>第 3 章 ゲートウェイ・ソフトウェアのインストール</b> . . . . .	<b>7</b>
仮想マシンの作成 . . . . .	7
ゲートウェイ・アプライアンスへの QRadar ソフトウェアのインストール . . . . .	8
ご使用のゲートウェイ・アプライアンスの Linux パーティション・プロパティ . . . . .	9
<b>第 4 章 IBM Security Intelligence on Cloud のサブスクリプションの終了</b> . . . . .	<b>11</b>
<b>特記事項</b> . . . . .	<b>13</b>
商標 . . . . .	14
製品資料に関するご使用条件 . . . . .	15
IBM オンラインでのプライバシー・ステートメント . . . . .	15



---

## IBM Security Intelligence on Cloud のオンボードの概要

IBM QRadar® Security Intelligence on Cloud を使用して、サブスクリプション・モデルで IBM® Security QRadar を使用してネットワークをモニターします。

### 対象読者

QRadar システムのインストールと構成を担当するネットワーク管理者は、ネットワーク・セキュリティーの概念と Linux オペレーティング・システムについて理解している必要があります。

### 技術文書

IBM Security QRadar の製品資料を Web で入手するには、IBM Knowledge Center ([http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SSKMKU/com.ibm.qradar.doc\\_cloud/c\\_hosted\\_inst.html](http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SSKMKU/com.ibm.qradar.doc_cloud/c_hosted_inst.html)) にアクセスしてください。各言語に翻訳された資料もすべて用意されています。

QRadar 製品ライブラリー内のより技術的な資料にアクセスする方法については、Accessing IBM Security QRadar documentation ([www.ibm.com/support/docview.wss?rs=0&uid=swg21614644](http://www.ibm.com/support/docview.wss?rs=0&uid=swg21614644)) を参照してください。

### お客様サポートへの連絡

お客様サポートへのお問い合わせ方法については、Support and Download Technical Note (<http://www.ibm.com/support/docview.wss?uid=swg21616144>) を参照してください。

### 適切なセキュリティーの実践に関する注意事項

IT システムのセキュリティーでは、企業の内部と外部からの不正なアクセスの防止、検出、対応により、システムと情報を保護する必要があります。不正なアクセスにより、情報の改ざん、破壊、盗用、悪用が発生したり、使用しているシステムの損傷や、他のシステムに対する攻撃のための利用を含む悪用につながる可能性があります。完全に安全と見なすことができる IT システムまたは IT 製品は存在せず、また単一の製品、サービス、またはセキュリティー対策が、不適切な使用またはアクセスを防止する上で、完全に有効となることもありません。IBM のシステム、製品およびサービスは、合法かつ包括的なセキュリティーの取り組みの一部となるように設計されており、これらには必ず追加の運用手順が伴います。また、最高の効果を得るために、他のシステム、製品、またはサービスを必要とする場合があります。IBM は、何者かの悪意のある行為または違法行為によって、システム、製品、またはサービスのいずれも影響を受けないこと、またはお客様の企業がそれらの行為によって影響を受けないことを保証するものではありません。

### 注意:

本プログラムの利用は、様々な法律または規制に関わる場合があります。これには、プライバシー、データ保護、雇用、電子通信、および電子保管に関連するもの

が含まれます。IBM Security QRadar は、合法的な目的のために合法的な手段を用いてのみ使用することができます。お客様は、適用される法律、規制、およびポリシーに従って本プログラムを使用することに同意し、かかる法律、規制、およびポリシーを遵守する全責任を負うものとします。ライセンサーは、IBM Security QRadar の合法的な使用に必要なすべての同意、許可、または使用権を取得するか、取得済みであることを表明するものとします。

## 第 1 章 IBM Security Intelligence on Cloud の概要

IBM Security Intelligence on Cloud により、IBM Security QRadar のメリットとカスタマー・サポートを享受できます。ただし、ホストされているデプロイメント内に限ります。セキュリティー要件が動的な環境では、IBM Security Intelligence on Cloud は、必要なセキュリティーのモニターと、要件が変わった場合にモニターを変更できる柔軟性との両方を提供します。IBM Security Intelligence on Cloud では、QRadar のオンプレミス・デプロイメントに必要なハードウェアおよびソフトウェアのすべてに投資することなく、QRadar の機能を使用することができます。

QRadar にはゲートウェイ・アプライアンスを介して接続します。ゲートウェイ・アプライアンス以外に、オンプレミスにインストールする必要があるハードウェアはありません。オンプレミスまたはクラウドでサポートされているすべてのログ・ソースからイベントを収集するために、ご使用のゲートウェイ・アプライアンスにイネープリング・ソフトウェアをダウンロードしてインストールします。イネープリング・ソフトウェアは、収集したイベントを IBM クラウドで実行されている QRadar に、セキュア VPN トンネルを介して転送します。データはクラウドに保管され、管理されます。セキュリティーおよび脅威に関するすべての管理タスクを管理するには、Web ブラウザーから QRadar コンソールにログオンします。これは、オンプレミスにデプロイされた QRadar の場合と同様に行えます。

以下の図は、ネットワーク上のデバイスがオンプレミスのゲートウェイ・アプライアンスに情報を送信する様子を表します。ゲートウェイ・アプライアンスは、IBM クラウドで実行されている QRadar のインスタンスと通信します。

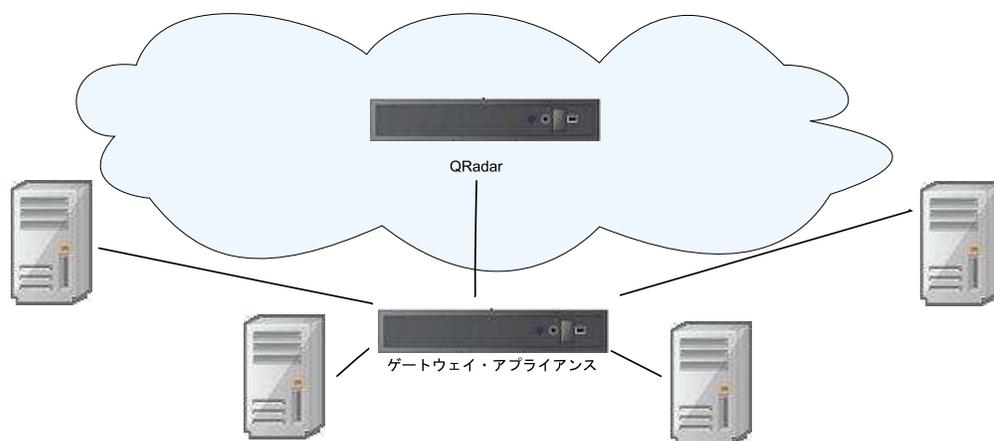


図 1. IBM Security Intelligence on Cloud デプロイメント環境の例

IBM Security Intelligence on Cloud には、IBM SoftLayer でホストされている IBM Security QRadar SIEM の機能があります。基本ライセンスには 1000 EPS (イベント/秒) が含まれ、必要に応じて 40,000 EPS までライセンスをアップグレードできます。

IBM Security Intelligence on Cloud のユーザー数は最大で 6 ユーザーまで可能です。それらのユーザーのいずれにもセキュリティー管理者のアクセス権を付与できます。

IBM クラウド・インフラストラクチャーの運用の正常性とパフォーマンスは、IBM サービス・チームによって 24 時間 365 日モニターされています。カスタマー・サポートは、既存の QRadar サポート・チームが担当します。IBM Security Intelligence on Cloud には、QRadar の最新の機能とソフトウェア更新が常に反映されています。

IBM Security Intelligence on Cloud には、組織のニーズの変化に対応できる、価格とモニターの両面での柔軟性が備わっています。

**重要:** IBM Security Intelligence on Cloud はフロー・データをサポートしません。

---

## 第 2 章 IBM Security Intelligence on Cloud のオンボード

IBM Security Intelligence on Cloud の購入後、IBM は、IBM Security Intelligence on Cloud を使用するために必要な情報を送信します。

IBM は、IBM Security Intelligence on Cloud の購入後に E メールを送信します。この E メールにはゲートウェイのランディング・ページへのリンクが記載されています。

ゲートウェイに関する情報を以下のリストで説明します。

- ご使用の IBM Security Intelligence on Cloud トークン。IBM クラウド上の IBM Security Intelligence on Cloud に接続するために使用するゲートウェイ・アプライアンスごとにトークンが必要です。
- ご使用のゲートウェイ・アプライアンスの IBM Security QRadar ISO へのダウンロード・リンク。
- Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 6.7 のコピー (インストール時に QRadar ISO が構成するデフォルト・パーティションを組織で変更する必要がある場合のみ)。
- 各ゲートウェイ・アプライアンスのソフトウェア・インストールのアクティベーション・キー。
- ゲートウェイ・アプライアンスを介して接続するコンソールのパブリック・ホスト名。
- IBM Security Intelligence on Cloud の 6 人のユーザー用の必要なライセンス。

### ゲートウェイ・アプライアンスの前提条件

IBM Security Intelligence on Cloud ゲートウェイ・アプライアンスを使用するには、以下の前提条件を満たす必要があります。

- ゲートウェイ・アプライアンスを介して IBM Security Intelligence on Cloud に接続するための静的 IP アドレスが必要です。
- IBM Security Intelligence on Cloud にセキュリティー・データを送信するのに十分な帯域幅が必要です。

例: 平均では、1000 EPS (イベント/秒) の場合は 10 Mbps、10,000 EPS の場合は 100 Mbps が必要です。

上記の例は、以下の式の計算結果を丸めたものです。

$EPS * (\text{平均イベント・サイズ} + 200) \text{ バイト} * 8 = \text{Mbps 値}$

$1000 * 1056 * 8 = 8.4 \text{ Mbps}$

- ご使用のゲートウェイ・アプライアンスが推奨システム要件を満たしていません。

## ゲートウェイ・アプライアンスのシステム要件

IBM Security Intelligence on Cloud と通信するためにオンプレミスにインストールするゲートウェイ・アプライアンスは、以下の仕様を満たしていなければなりません。

表 1. ゲートウェイのシステム要件 (物理アプライアンス)

仕様	必要とされる値
CPU	2.6 GHz、6 コア、15 MB キャッシュ
RAM	16 GB、4 x 4 GB 1600 MHz RDIMM
HDD	2 TB:  ソフトウェアのインストール用に 200 GB、イベント用のスペースの計算には以下の式を使用:  (1 日の秒数) x (1 秒当たりのイベント・レート) x (ログ・イベントの平均サイズ x QRadar の正規化イベント・オーバーヘッドの 1.5 倍) 例:  $86400 \times 10,000 \text{ EPS} \times 600 \text{ バイト} = 518400000000 \text{ バイト} = 518.4 \text{ GB}$ 、+ 200 GB (ストレージ用) = 718.4 GB。

表 2. ゲートウェイのシステム要件 (仮想アプライアンス)

仕様	必要とされる値
CPU	1000 EPS (イベント/秒) 以下の場合は 4 コア。  1000 から 10,000 EPS の場合は 8 コア。
RAM	16 GB、4 x 4 GB 1600 MHz RDIMM
HDD	2 TB:  ソフトウェアのインストール用に 300 GB、イベント用のスペースの計算には以下の式を使用:  (1 日の秒数) x (1 秒当たりのイベント・レート) x (ログ・イベントの平均サイズ x QRadar の正規化イベント・オーバーヘッドの 1.5 倍) 例:  $86400 \times 10,000 \text{ EPS} \times 600 \text{ バイト} = 518400000000 \text{ バイト} = 518.4 \text{ GB}$ 、+ 200 GB (ストレージ用) = 718.4 GB。

## ポート 443 アウトバウンド

IBM は、IBM Security Intelligence on Cloud のデプロイメント用に IP アドレスを 2 つ提供します。1 つはコンソール用で、もう 1 つは VPN 用です。

ポート 443 アウトバウンドを、これら 2 つの IP アドレスに対して開いておく必要があります。

## DSM 証明書

以下のいずれかの DSM 用に証明書が必要な場合、または、QRadar に特定のデータをインポートするためのアダプターが必要な場合は、[q1saas@us.ibm.com](mailto:q1saas@us.ibm.com) にお問い合わせください。

- Amazon
- 汎用ファイアウォール
- 汎用認証サーバー
- IBM Endpoint Manager
- IBM Fiberlink
- Juniper Steel-Belted Radius
- Juniper Binary
- Open LDAP
- PostFix
- Salesforce Security Monitoring
- Sourcefire eStreamer
- Verdasys



---

## 第 3 章 ゲートウェイ・ソフトウェアのインストール

IBM Security QRadar SIEM は仮想アプライアンスにも物理アプライアンスにもインストールできます。

制約事項: 論理ボリューム・マネージャー (LVM) を使用した論理ボリュームのサイズ変更はサポートされていません。

---

### 仮想マシンの作成

IBM Security QRadar を物理アプライアンスにインストールしない場合は、インストールできる仮想マシンを作成します。

#### 始める前に

仮想アプライアンスをインストールするには、最初に VMware vSphere Client 5.1 を使用して仮想マシンを作成する必要があります。

#### このタスクについて

IBM Security Intelligence on Cloud の推奨仕様を満たすように仮想マシンを構築します。詳しくは、3 ページの『第 2 章 IBM Security Intelligence on Cloud のオンボード』を参照してください。

#### 手順

1. VMware vSphere Client で「ファイル (**File**)」 > 「新規 (**New**)」 > 「仮想マシン (**Virtual Machine**)」をクリックします。
2. 以下のステップに従って、各項目の選択を行います。
  - a. 「新規仮想マシンの作成 (**Create New Virtual Machine**)」ウィンドウの「構成 (**Configuration**)」ペインで、「カスタム (**Custom**)」を選択します。
  - b. 「仮想マシンのバージョン (**Virtual Machine Version**)」ペインで「仮想マシンのバージョン: 7 (**Virtual Machine Version: 7**)」を選択します。
  - c. 「オペレーティング・システム (**OS (Operating System (OS))**)」で「**Linux**」を選択してから「**Red Hat Enterprise Linux 6 (64-bit)**」を選択します。
  - d. 「**CPU**」ページで、仮想マシンで必要とする仮想プロセッサの数を以下のように構成します。
    - 1000 EPS (イベント/秒) 未満の場合は 4 コアを選択します。
    - 1000 EPS 以上の場合は 8 コアを選択します。
  - e. 「メモリー・サイズ」フィールドで、16 以上を入力または選択します。
  - f. 次の表を使用してネットワーク接続を構成します。

表 3. ネットワーク構成パラメーターの説明

パラメーター	説明
接続する NIC の数 ( <b>How many NICs do you want to connect</b> )	少なくとも 1 つのネットワーク・インターフェース・コントローラー (NIC) を追加する必要があります。
アダプター ( <b>Adapter</b> )	VMXNET3

- g. 「**SCSI コントローラー (SCSI controller)**」 ペインで「**VMware Paravirtual**」を選択します。
- h. 「**ディスク (Disk)**」 ペインで「**新規仮想ディスクの作成 (Create a new virtual disk)**」を選択し、次の表を使用して仮想ディスク・パラメーターを構成します。

表 4. 仮想ディスク・サイズとプロビジョニング・ポリシーのパラメーターの設定

プロパティ	オプション
容量	2 TB 以上
ディスクのプロビジョニング (Disk Provisioning)	シン・プロビジョン
拡張オプション (Advanced options)	構成しない

- 3. 「完了する準備ができています (**Ready to Complete**)」 ページで設定を確認し、「終了 (**Finish**)」をクリックします。

## ゲートウェイ・アプライアンスへの QRadar ソフトウェアのインストール

IBM Security QRadar ソフトウェアを物理アプライアンスまたは仮想マシンにインストールします。IBM Security Intelligence on Cloud にはゲートウェイ・アプライアンスを介して接続します。

### 始める前に

以下の情報を確認しておいてください。

- ご使用のゲートウェイ・アプライアンスのアクティベーション・キー
- IBM Security Intelligence on Cloud のトークン
- ご使用のゲートウェイ・アプライアンスを介して接続するコンソールの完全なホスト名。

### 手順

1. QRadar を物理アプライアンスにインストールする場合は、QRadar ISO ロケーションのブート・オプションを DVD または USB から選択します。
2. QRadar を仮想マシン (VM) にインストールする場合は、以下の手順でインストールを開始します。
  - a. DVD ドライブからの QRadar ISO を指定します。
  - b. 電源オン時に DVD ドライブから起動するように VM ブート・メニューを構成します。
3. アプライアンスの電源をオンにします。
4. 表示される エンド・ユーザー使用許諾契約書 (EULA) を受け入れます。

ヒント: 文書を先に進めるにはスペース・バーを押します。

5. プロンプトが表示されたらアクティベーション・キーを入力します。
6. インストール・ウィザードの指示に従って手順を進めます。
7. インストール・ウィザードの「ゲートウェイのセットアップ (Gateway Setup)」ウィンドウで、「はい、今すぐに接続を構成します (**yes Configure the connection now**)」を選択し、「はい」をクリックします。
8. 「デプロイメント構成」ウィンドウで、コンソールのドメイン名と、IBM Security Intelligence on Cloud のトークンを入力します。「次へ」をクリックします。
9. 「インターネット・アクセス (Internet Access)」ウィンドウで、ゲートウェイからインターネットへの接続方法 (「直接」または「プロキシ」) を選択し、「次へ」をクリックします。
10. 「インターネット・アクセス (Internet Access)」ウィンドウで「プロキシ」を選択した場合は、「**HTTP IP** アドレス」および「**HTTP** プロキシ・ポート」を入力します。
11. インストール・ウィザードの指示に従って、インストールを完了します。

インストール・パラメーターの構成後に、一連のインストール・メッセージが表示されます。これには、構成ダウンロードのメッセージや、「デプロイの完了を待機中 (waiting for do deploy to complete)」のメッセージ、レポート・メッセージなどがあります。インストール・プロセスには数分かかる場合があります。

---

## ご使用のゲートウェイ・アプライアンスの **Linux** パーティション・プロパティ

ユーザー所有のゲートウェイ・アプライアンスを使用する場合は、Red Hat Enterprise Linux オペレーティング・システムでデフォルトのパーティションを変更する代わりに、パーティションを削除してから再作成できます。

**重要:** Linux のパーティション・プロパティは、IBM Security QRadar を ISO からインストールする際に自動的に構成されます。下の表に示す情報は、デフォルト・パーティションを変更する必要がある組織のためにのみ提供しています。

下の表に示す値を、Red Hat Enterprise Linux オペレーティング・システムでパーティションを再作成する際の参考として使用してください。

**制約事項:** 論理ボリューム・マネージャー (LVM) を使用した論理ボリュームのサイズ変更はサポートされていません。

表 5. RHEL のパーティションに関するガイド

パーティション	説明	マウント・ポイント	ファイル・システム・タイプ	サイズ (Size)	強制的にプライマリーにする	SDA または SDB
/boot	システム・ブート・ファイル	/boot	EXT4	200 MB	はい	SDA

表 5. RHEL のパーティションに関するガイド (続き)

パーティション	説明	マウント・ポイント	ファイル・システム・タイプ	サイズ (Size)	強制的にプライマリーにする	SDA または SDB
/	QRadar、オペレーティング・システム、および関連ファイルのインストール領域。	/	EXT4	20000 MB	いいえ	SDA
/store/tmp	QRadar 一時ファイルのストレージ域。	/store/tmp	EXT4	10000 MB	いいえ	SDA
/var/log	QRadar およびシステム・ログ・ファイルのストレージ域。	/var/log	EXT4	10000 MB	いいえ	SDA
swap	スワップ・パーティション		swap	4094 MB	いいえ	SDA
/store	QRadar データおよび構成ファイルのストレージ域。	/store	XFS	2 TB の割り振りの残りのスペース。	いいえ	SDA ディスクが 2 つの場合は SDB

---

## 第 4 章 IBM Security Intelligence on Cloud のサブスクリプションの終了

IBM Security Intelligence on Cloud の使用を停止することを決定した場合、ご使用のデータを取得する必要があります。

IBM Security Intelligence on Cloud の使用を停止することを決定した場合は、サービスを停止するタイミングに関する情報を E メールで [q1saas@us.ibm.com](mailto:q1saas@us.ibm.com) にお知らせください。

IBM から、サービスを停止するために必要なトークンと、ご使用のデータの取得方法の説明を E メールで送信します。それらのトークンの適用後は IBM Security QRadar にイベントを送信できなくなり、保持したいデータを取得するための期間として 30 日間の猶予が与えられます。



---

## 特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510

東京都中央区日本橋箱崎町19番21号

日本アイ・ビー・エム株式会社

法務・知的財産

知的財産権ライセンス渉外

IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Director of Licensing  
IBM Corporation  
North Castle Drive, MD-NC119  
Armonk, NY 10504-1785  
US

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができませんが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

記載されている性能データとお客様事例は、例として示す目的でのみ提供されています。実際の結果は特定の構成や稼働条件によって異なります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

表示されている IBM の価格は IBM が小売り価格として提示しているもので、現行価格であり、通知なしに変更されるものです。卸価格は、異なる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

---

## 商標

IBM、IBM ロゴおよび [ibm.com](http://www.ibm.com)<sup>®</sup> は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> をご覧ください。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における登録商標です。

---

## 製品資料に関するご使用条件

これらの資料は、以下のご使用条件に同意していただける場合に限りご使用いただけます。

### 適用度

IBM Web サイトの「ご利用条件」に加えて、以下のご使用条件が適用されます。

### 個人使用

これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布（頒布、送信を含む）または表示（上映を含む）することはできません。

### 商業的使用

これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示することはできません。

### 権限

ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入 関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。

IBM は、これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。

---

## IBM オンラインでのプライバシー・ステートメント

サービス・ソリューションとしてのソフトウェアも含めた IBM ソフトウェア製品（「ソフトウェア・オファリング」）では、製品の使用に関する情報の収集、エンド・ユーザーの使用感の向上、エンド・ユーザーとの対話またはその他の目的のために、Cookie はじめさまざまなテクノロジーを使用することがあります。多くの場合、ソフトウェア・オファリングにより個人情報が収集されることはありません。IBM の「ソフトウェア・オファリング」の一部には、個人情報を収集できる機能を

持つものがあります。ご使用の「ソフトウェア・オファリング」が、これらの Cookie およびそれに類するテクノロジーを通じてお客様による個人情報の収集を可能にする場合、以下の具体的事項を確認ください。

このソフトウェア・オファリングは、展開される構成に応じて、セッション管理および認証の目的のために、それぞれのお客様のセッション ID を、セッションごとの Cookie を使用して収集する場合があります。これらの Cookie は無効にできますが、その場合、これらを有効にした場合の機能を活用することはできません。

この「ソフトウェア・オファリング」が Cookie およびさまざまなテクノロジーを使用してエンド・ユーザーから個人を特定できる情報を収集する機能を提供する場合、お客様は、このような情報を収集するにあたって適用される法律、ガイドライン等を遵守する必要があります。これには、エンドユーザーへの通知や同意の要求も含まれますがそれらには限られません。

このような目的での Cookie を含む様々なテクノロジーの使用の詳細については、IBM の『IBM オンラインでのプライバシー・ステートメント』(<http://www.ibm.com/privacy/details/jp/ja/>) の『クッキー、ウェブ・ビーコン、その他のテクノロジー』および『IBM Software Products and Software-as-a-Service Privacy Statement』(<http://www.ibm.com/software/info/product-privacy>) を参照してください。